

山鳥の話（二話）      = = =      三州横山話より

人を化かす山鳥

山鳥の尾に一三の斑のあるものは、人を化かすと言います。また山鳥の、人間が近づいても逃げないような奴は、決して構うものではないと言います。明治三〇年頃、私の家に子守をしていた山口末吉という当時一五、六歳の子供が、山鳥に化かされたと言ったことがありましたが、何でも子供を背負って裏の山へ行くと、目の前に大きな山鳥がいたので、それを捕らえようとして尾をつかむと、するりと抜けて、鳥は五、六尺前へ逃げるので、また後を追ってつかむと、やはりするりと抜けてしまったそうです。こうしてだんだん山深く、日が暮れるのも忘れて、山へ入ったと言いました。また、尾に一三段の斑があるものが、夜、山から山へ越す時は、人魂のような、長く尾を引いた火に見えると言います。

山鳥の尾は魔除けになると言って、人家の門口にさしてあるのをよく見かけますが、一三段の斑のあるものは、井戸を掘るとき、あらかじめ掘ろうとする場所へ立てて置くと、一夜の内に、水のある深さまで露が昇っていると言います。たとえば斑の一〇段目に露があれば、一〇尋の深さに水がある兆しだと言うのです。

肉の臭い山鳥

山鳥には、非常に肉の臭いものがあるって、せっかく撃っても食べることが出来ないと言います。

また別の話では、肉が臭いのではなく、撃ち所が悪いと臭いのだともいいません。



山鳥 上

下

